

小竹図書館 「令和5年度 図書館利用者と館長との懇談会」

- 1 日時 令和5年11月1日（水） 午前10時半～12時
- 2 場所 小竹図書館 2階 会議室
- 3 出席者 利用者 16名
図書館 3名
(小竹図書館長、副館長、副業務責任者)
- 4 テーマ 「知と情報の拠点、地域図書館・小竹に望むこと」
- 5 配布資料 (1)次第
(2)図書館利用案内
(3)令和5年版練馬区教育要覧
(4)「これからの図書館構想」(抜粋)
(5)練馬区立図書館報「図書館だより」
(6)小竹図書館広報誌「すてんどぐらす」
(7)小竹図書館 中学生・高校生用図書館だより「たけのこ通信」
(8)イベント(11月～開催予定)のご案内
(9)アンケート用紙
- 6 次第 (1)小竹図書館より挨拶
(2)図書館員紹介
(3)参加者自己紹介
(4)懇談会テーマ:「知と情報の拠点、地域図書館・小竹に望むこと」
(5)質疑応答

小竹図書館利用者懇談会 会議録

1 小竹図書館より挨拶

皆さま、本日はお忙しい中、小竹図書館の「令和5年度 館長と利用図書館利用者と館長の懇談会」にお集りいただきまして、ありがとうございます。顔なじみの方もいらっしゃれば、初対面の方もいらっしゃると思いますので、後ほどご自己紹介をしていただけたらと思います。

さて、小竹図書館ですが、平成26年から指定管理者制度が導入されまして、私どもやハートフルサポート共同事業体が図書館運営と施設管理を行っております。ハートフルサポート共同事業体とは、NTTグループのテルウェル東日本と、練馬区に本社を置く五十嵐商会からなる団体で、図書館の運営管理については代表企業のテルウェル東日本が、施設管理に関しては五十嵐商会が担当しています。

2 図書館員紹介

小竹図書館長、副館長、副業務責任者

3 参加者自己紹介（自己紹介部分割愛）

4 懇談会テーマ：「知と情報の拠点、地域図書館・小竹に望むこと」

図書館 本日のテーマは、「知と情報の拠点、地域図書館・小竹に望むこと」です。といたしても、ということで何のことかなと思われるかと思しますので、説明させていただきます。

練馬区では平成30年6月にグランドデザイン構想を策定しまして、30年後の目指すまちの将来像として、「みどりに恵まれた良好な環境の中で誰もが暮らしを楽しむ成熟都市」と掲げました。具体的な実行計画ではアクションプランに掲げるという中で優れた芸術を楽しめる町を実現させるために、取り組みの一つとして図書館の在り方に注目され、これまで有識者を交えて検討を重ねてきました。その過程で、図書館は読書の支援が基本機能ではあるけれども、近年の社会情勢の流れを考慮し、それを踏まえて新しい機能を付加していくべきだとか、関係部署や地域団体と連携しながらさまざまな情報を提供することによって、区民の皆様の学習活動を支えることや、地域の課題解決や親交を深めることが求められているのではないかなど、さまざまな意見が交わされています。

こうした結果、令和4年11月に、これからの図書館の理念やおおむね10年後の将来像、その実現に向けたコンセプトを示した「これからの図書館構想」が策定されまして、今年4月に施行されました。今日は地域社会の文化や生涯学習を支えている知の基盤となる情報拠点が、地域図書館のひとつ、小竹図書館が担っていくためには今後どのようなことをしていけば良いかを探るために、皆さまからご意見をお伺いできたらと思います。次第の右側に理念：世界につながる 彩り豊かな 知の情報拠点ということで、目指す将来像が4つありまして、①世界の情報、知識を届ける②練馬の文化を次世代に繋げ、発信する③交流が生まれ、新たな知が創造される④デジタルを活用し、誰もが情報を得られる。この中の4つの将来像それぞれに付随してコンセプトがあります。

1つ目が世界の知と出会い、学びを豊かにする。2番目は練馬の文化を継承・発信する。3番は知が交わり、創造を生み出す。4番は情報へのアクセスを支援する。こちらは例えば何でもスマホで申し込むという時代になってきましたが、使い方がわからない方がいらっしゃると思いますので、そういった方を支援することなどがあります。

1番についてはとらえ方が難しく、知的探求心を深める情報の充実であったり、多様な学びであったり。小竹図書館でいうと遠足のようなことを毎年5月に行っているのですが、それは武蔵大学の屋上でミツバチを飼っているのも、その飼育風景見て、教室を借りて勉強し、武蔵大学の構内を1周するエコツアーをして環境についてどんなことを配慮しているのかという説明を聞くということをやっています。武蔵大学のそばを通るけど

中がどうなっているのかわからなかったし見たかったという人や、ミツバチの飼育に興味があったという方など、いろんな方がいらっしゃいました。

これから 11 月に行うイベントでは、宮沢賢治の研究をされている日大の教授を招き、お話していただきます。また、小竹プレパひろばに出張して、若いお母さん方に向けて月齢に応じた絵本の選び方についてのお話をしています。

2 番目にある「練馬の文化を継承、発信しよう」では、地域ならではの情報を皆様にお知らせしています。練馬大根の歴史についてのイベントをしたこともあります。この間は都市農業について、農業体験農園をされている代表の方に来ていただき、都市農業が抱える問題や練馬の農業の将来像についてなどを話していただきました。これは男性の方の参加が多く、「一回農業してみたかった」「やってみたい」とおっしゃる方がいました。

また、今回の NHK のドラマで有名になった牧野富太郎先生について、記念庭園の学芸員の方に来ていただいて 3 回講演を行いました。

3 番目の「知が交わり、創造を生み出す」について。人と人、人と地域のつながりの創出。多様なニーズに関する俯瞰の創出。ボランティアの時間というのを小竹図書館では行っております。ちょっとボランティアをしてみたいという方に集まっていただき、2 か月に 1 回、本の修理をしていただいています。本の修理のノウハウをこちらから提供し、その修理をしながら最近読んだ本のことや、こんな本があったよという紹介などを行っています。練馬つながるフェスタは、今年 1 月に練馬区がやっているつながるフェスタ、要するに地域でボランティア活動をされている団体のパネル展示をこの会議室で行っています。参加団体もだんだん増えてきています。子どものためのボランティアをやっていらっしゃる方や、芸術祭の紹介となるパネル展示などを行っています。4 つの柱があるのですが、もうすでにご協力いただいている団体もいらっしゃいますし、あるいは、こんなことやってみたら？というようなご意見があったら、出していただけたらなと思います。

先ほど、自己紹介のときにいくつかアイデアをいただきました。小竹町会さんは文化祭をされていますし、桜台親和町会さんでも 2 月に地区祭をされるということで。江古田の駅前ではパン祭りもされています。小竹町会さんでは、八雲神社を会場にして「小竹あそび」というイベントもされています。他に、私たちがまだ情報をキャッチしていないこともあるのではないかなと思うのですが……。介護関連ではいかがでしょうか？

利用者 在宅療養の講演会のところでは、実際に見ていただいて質問がしづらかったとき、地域の担当として 65 歳以上の方が中心になるのですが、地域包括支援センターが医療と介護を練馬の本部で、一カ所で相談できますという形です。重層的支援体制整備事業という、もともとは令和 3 年から社会福祉法で位置づけられたもので、練馬区でも本格的に稼働するようになりました。地域包括支援センターにその事業を持ってきていただく形になるので、今もご相談には乗ってはいるのですが、来年度以降は介護のほかには障害を持つ方のお話とか、地域包括支援センターで導入する形になってきます。それと併

せて地域で行っている活動とつなげたりだとか、あとは地域にない活動を新たに立ち上げたりと、地域づくりにも力を入れています。知が交わるというか、創造を生み出すという部分にもつながるかとは思いますが、そういうことを目指してやっているのかなと思います。具体的な成果はまだ出せていませんが、図書館とつながって何かご協力できることもあるのではないのでしょうか。

図書館 ありがとうございます。それでは順番に、世界の知と交わるというのがコンセプト1ですが、世界の知と出会い、学びを豊かにするといっても、なかなか難解です。生涯を通じて区民の誰もが学びを継続できるようにということですが、特にコロナの間もあり、なかなか難しかった。小竹図書館が前に企画していたのは、例えば世界のどこかに滞在していた方にお話を聞くというものでした。知的探求心を深める情報の充実、多様な学びの機会の提供というところで、どういう風にやっていったらいいかと考えていますが、この点、いかがでしょうか。何かご意見があれば？

利用者 世界の知と出会い……、すごいテーマだなと思いました。今まで知らなかったのですが、小竹図書館の1階に設置してあるコーナーで、練馬区はオーストラリアのイプスウィッチ市と友好指定都市だと書かれた掲示を見ました。提携しているのなら、例えばツアーを組んで向こうの図書館を見に行くとか、そういうのがあったら面白いなと思いました。世界の知と出会うので一番なのは、今の世界だとインターネットを通じていろいろな情報を共有していくこと、もう一つはデジタルの4番目にもかかわりますが、人工知能を活用しながら新しい知見を得ていくというのが、今後の大きな2つのテーマになるのかなという感じがいたします。

図書館 イプスウィッチと友好都市を結んでいるので、これまで2年に1回イプスウィッチから本を寄贈していただいていたいました。小竹図書館は隣に力行会があり、留学生が多いということで、優先的に英文の本をもらっていました。毎年どんな本が欲しいかという調査があるので、英文で書かれた絵本や写真集を希望していただいていたいました。また、2年に1回、練馬区が先方に寄贈していましたので、寄贈本を選ぶお手伝いし、外国の方が喜んでくれそうな、日本の居酒屋や銭湯のようなガイドブックや、著名作家の小説の英訳本などを選んだりしていました。しかしながら、この事業はコロナ禍の影響で一時的に止まっています。一つ言えることは、小竹図書館は結構英文の本が多い方だと思います。イプスウィッチと結びつきがあるということをご存じない方もいらっしゃるって、もうちょっと広報した方がいいんじゃないかとも思います。

今、外国の方が増えてらっしゃるんじゃないかと思うのですが、皆さんのお近くではいかがでしょうか？ 何か感じておられますか？

利用者 商店街には入ってらっしゃいます。お店が商店街にあるので、商店街のイベントには参加して下さっていますね。そういう方同士で交流しているのかなと。江古田に住んでいる外国の方たちで集まりがあるのも面白いのではないかと思います。

利用者 江古田のお店には、外国の方も結構来ていますよね。外国の方がやってるお店もあったりします。

利用者 うちの町会は住宅街ですけども、例えばアメリカ人のご夫婦がいらっやっています。日本語もOKな人なので、イベントに参加するときは、英語で他の外国人にご説明いただくとか、花壇の手入れを一緒にやっていただくとか、みんなで仲良くしています。普段は学校で英語を教えていらっやるようです。

図書館 小竹図書館も最近外国語のおはなし会をやっています。アメリカに留学していた人や中国での駐在経験がある人とか、韓国ドラマにはまって韓国語を習いに行った人などが担当しています。ほかの言語も増やしていきたいのですが、にわか勉強では人前で話すのが難しいので、外部のネイティブの方にご協力いただけたら、とても助かります。

利用者 練馬図書館も今月やるとっていましたよ。

図書館 そうなんですね。なかなか講師の方を見つけるのが難しくて。あと、中学生の職場体験の受け入れをしていますが、たまに外国から来た生徒さんがいらっやいます。ネパールから来ましたとか、まだ日本語がうまく話せず、友達もなかなかできづらいということ伺ったりすると、逆に、何か図書館でできることはないかなと思っています。自信回復していただくためにも、ここで外国語のおはなし会などをしていただけたらと思うのですが、授業やクラブ活動などもあるので、実行に移すまでに時間がかかります。そういった生徒さんは、ご家族で来られていると思うので、そのご家族にも図書館を利用してもらうにはどうしたらいいかなと考えています。結びつくまでなかなか難しいので、ぜひみなさんにご協力いただければと思います。

利用者 今の時代、結構情報があふれているじゃないですか？ だからこちらから探りにいなくても、周りをちょっと見れば、いくらでもインターネットやスマホで、もちろんテレビやラジオでも。逆に情報過多になっちゃっているんですね。氾濫する情報の中でいかに取捨選択し、自分に必要な情報だけ選び取るかということに力が入るようになりました。昔、私が子どものころは情報を得ることに力が入っていたのですが、今はまったく変わってしまった。ただ、一般のメディアで流されている情報は、ある一定のフィルターに通されてから、受け手であるこちらに情報が入ってくるものがほとんどです。生の情

報といますか、周りに住んでいる外国の方々から直に聞いた情報とは異なるニュアンスで報道されていると感じたり……、つまり日本人が日本人のためにフィルターをかけて取ってきた情報を受け手に渡しているのでは？ それを聞いて世界のことがわかったつもりになっているんじゃないかな。情報が多い半面、生きた情報がない……、そこらへんが難しいですね。

図書館 そうですね。そこが4番の情報リテラシーというところにも関係してくると思います。情報を取捨選択して、活用するための能力をどうやって磨けばいいのか。ネットのニュースなんかを見ている、本当かな？と思うときが、実際にありますので。

利用者 大体ほとんど同じニュースですね。流されるのは。映像も同じだし……。

利用者 そこで特に問題視されているのが、がんの治療法です。インターネット検索したときに上の方に出てくる、「治る」とか。ああいうのは全部インチキで、その情報の見極め方をぜひ図書館でも講座としてやっていただきたいと思います。命にかかわる問題ですから。代替医療とひと言でいっても非常に難しく、今風の代替医療もあるんですね。免疫療法とか自己免疫療法と幹細胞療法とか。さも先端医療のようにいって、絶対治りますなどと謳って、本当に財産を分捕られちゃう。200万とか300万円とかすぐにかかりますので。今、お医者さま、医療不信に陥っている方が本当に多いです。やはりお医者さまは治りますとはなかなか言えないんですね。個々人によって違うし、治るでしょうと言うこともできない。治療法を選択肢を示して、ここから選んでくださいというのが大半です。でも患者やその家族は、一旦がんと言われて頭が真っ白になっているときに、どの抗がん剤がいいのか、放射線がいいのかは、なかなか選択できないんですね。その辺の正しい情報が非常に不足しているので。私は患者会に属してまして、患者会として国会に陳情することもあります。例えばデカドロンという吐き気止めの薬は、もともと錠剤の粒がとても大きかったんですね。がん患者さんが飲みこむのはとても大変。それを製薬会社と掛け合って、うんと小さくしてもらったこともありました。そういう活動をする患者団体がありますので、ぜひそういった疑問、患者学、がんは難しいので、基本から教えていただく講座はいかがですか？ ぜひご紹介いたしますので、やってください。本当に大変です。ネットの情報をいったん信じ込んでしまった人に、いくら説明しても、なかなかわかってくれませんからね。

利用者 私はもともとジャーナリストでして、新聞社で取材・編集をずっとやっていました。それで、新聞の記事が信じられるのかということ、全然そんなことはなくて。よくいろんな記事が出ますよね？ その追っかけ取材で、この件についていろいろお伺いしたいのですがと電話をかけると、「めちゃくちゃデタラメなんだよね」と言われることがしょっち

ゆうです。もう日常茶飯事と言ってもいいぐらいです。要は新聞でもテレビでも、やっぱり記者や編集者の目線によって、いかようにも書き分けられる、伝えられるということがあるのです。私たちはともかく一つの情報であっても、360度いろいろな角度から多面的に見ることが大切。私たちは、1つのテーマでも本屋さんや図書館に行って30冊くらいはいろんな著者の情報を集めて来い、ということをや若いころから叩き込まれている。そういう風に、先ほどあった情報リテラシーっていうのは、やったことがある人とない人ではかなりとらえ方が違いますね。インターネットは本当に玉石混交の情報が流れていますので、図書館としてもとらえ方の講習会などをやられたらいいんじゃないかなと思います。

図書館 なるほど。図書館はそのあたり少し遅れているといえるかもしれませんね。

利用者 いまだに紙ばかり……。

図書館 紙ばかりですし、情報を印刷することもできない。インターネットパソコンは、小竹図書館にも3台あり、申し込みしていただいたら60分間使っていただけます。ただし、小竹では印刷することはできません。利用者からは出してくれたら便利なのに、というお声をいただくことがありますが、まだ追いついていません。

利用者 デジタル文庫とか、そういうのはやっていないのですか？ 予定は？

図書館 そうですね、まだですね。

利用者 何か理由があるんですか？

図書館 検討はしているようです。自治体によって、まちまちです。ただ電子書籍も問題がありまして、まず高価なんです。1冊1冊が。

利用者 そうなんですね。なんだか紙より安いような気がしていました。

図書館 紙より何倍かするようです。区によって同時に何冊、何人までという閲覧制限がありまして。しかし、その電子書籍を出している出版社がなくなったとき、どうするかという問題もあります。契約年数が残っていても、その本が読めなくなったり。また契約期間が切れたら、読めなくなるのかという問題もあるようです。電子情報が図書館に移せるんだったら、っていうこともあるのですが、今度はサーバーの課題があったりとか、なかなか大変なようです。

利用者 僕も試しに1回だけ ebook を使ってみたのですが、結構不便なもので、コピーページというのでしょうか。切り取ったりすることができないんですよね。それどころか、自分の本だったらマーカーを引いたりするんですけど、それができないんですよね。不便なんですよ……。でも安かったです。

図書館 おそらく個人仕様と図書館仕様では違うのでは？

利用者 違うんでしょうね……

図書館 新聞もインターネットで過去記事を読むことができますが……。

図書館 そうですね、オンラインデータベースがあるのですが、自治体と新聞社の契約、例えば読売新聞なら「ヨミダス歴史館」、朝日新聞なら「朝日新聞クロスサーチ」ですね。ただ、自治体が契約している本数によって、同時に使えるのが●人というように制約されます。

図書館 仮に3本契約していると、12館ある中で、同時に3人しか使えないということになります。

利用者 難しいですね。

図書館 図書館でも、今後デジタル化は進んでいくと思います。あるところまでいくと急に進むと思われそうですが、なかなかそこに行きつくまで時間がかかっています。

図書館 国会図書館ではデジタルアーカイブが発達しているので、古い本、例えば明治時代に出た本でも当時に出版された状態で読めるんです。ほかに著作権が切れた本なら一般の方でも読めます。

図書館 さて、2番の「練馬の文化を継承・発信する」について移りたいと思います。皆さんの中には、いろいろと地域の取材をされて情報を集めていらっしゃる方もいるかと思いますが……。

利用者 私は地域新聞の編集を2011年1月号から始めたんですよね。それから5、6年でやめたんですけど、江古田の歴史にいろいろと触れることができました。そういう文化発祥というところをいろいろ取材して回っていたので。今さらながら結構いい新聞だった

のではないかと……。地域のことだけなんですけど、旭丘、小竹を毎日ウロウロしながら情報を集めていました。

図書館 先ほどお祭りの話が出ましたが、どうやってお祭りに参加したらいいのかというのがあります。

利用者 そうなんですよね。一般の人は参加の仕方がわからないですよね。言っていたかないと、お神輿はやっぱりお祭りの半纏を着た人しか担げないので、人数が多ければ多いほど半纏を回して着ながら、どんどん人が代わって担いだりとかができるんですけどね。どうなのでしょう。みなさんやっぱり参加されたいのでしょうか？

図書館 日本文化に触れられるので、外国の方とか参加されたい人もいるんじゃないかなと思います。

利用者 小竹町さんはやりませんでしたか？

利用者 小竹は八雲神社さんで……

利用者 八雲神社さんで外国の方が担いでるというのは？

利用者 それは、見たことないですね……。

利用者 お祭りというと、いま豊玉第二町会が、来年、環七のところにある氷川神社のお祭りを開くにあたって、もう担ぎ手を募集しています。神輿を交替しながら担ぐので100人は集めないといけないらしい。ところが実際に活動しているのは、現在、数人しかいないというので、どうやって人を集めたらいいかと、悩んでいますね。

利用者 うちの町会では、日芸の学生さんがこの前来てくれたのはとてもありがたかったですね。

図書館 町会に入らないといけないんですか？

利用者 入らなくてもウェルカムなんですって。

利用者 お祭りのお神輿っていうのは、結構、素人は担ぎきれないところがあって、そういう担ぎを専門にしている人たちがいるんですよ。そういう人たちが5、6人来て、それプ

ラス町会の人たちでやってるんですよね。若い人たちですと、日芸さんだったり武蔵大学さんとか、そことつながると担いでみたいという人もいますので、良いかなと思いました。今年は、そうやって日芸さんにつながって、日芸の校舎の中にお神輿が入ったそうです。学長さんがすごく喜んだって聞いています。やっぱりいいですよ、お祭りってすごく日本の文化だと思うので、続けていかないと……。とにかくリーダーが80、90代なもので……。皆さんの奉納金で子どもたちにお菓子を配ったり、担ぎ手にごちそうしたりする、そういうことをわかっていただけると。地元の人が、親からそういうことを受け継いで、氏神様に年に一度感謝をするというところに、お祭りの意義もあるので。

利用者 昔は家ごとに回って来ましたよね。

図書館 小竹図書館周辺は、若い層も結構住んでいるので……。

利用者 わからない、知らないという方も結構多いんじゃないかと思います。またコロナで4年ぐらい中止していたから。

図書館 そういうのもできたらいいかと、さっき日芸さんが来てくれたとのことだったのですが、西武鉄道が後援されている江古田キャンパスプロジェクトがあります。日芸と武蔵大学と武蔵野音大の学生有志が集まって、江古田の町を一つのキャンパスに見立てて、江古田の良いところを見つけていこうという地域活動です。小竹図書館では、今年の5月、昨年度の活動成果を発表するパネル展示を行いました。さらに今年度は、「江古田の良いところはどこですか？」というような取材を受けたりもしました。今後、西武電車の中に社内刷りのポスター等で、まちの良さをアピールしていくということになっています。西武鉄道の広報部の方にその意図を聞いたところ、今後少子化で鉄道沿線も人口が減っていくといわれている。そこで沿線の中のいくつか町を選んで、その魅力を発信していきたい。その中の一つが江古田だったそうです。江古田の良さを3大学の学生さんの目線で、選んでもらって、アピールしていきたいということでした。このプロジェクトのメンバーは、すごくやる気があって、お話ししていると、こちらもまちづくりについて熱い気持ちになれます。

利用者 今現在ですね、江古田の駅の交番隣の部屋を使って、朝10時から夕方6時まで、途中成果の発表をしています。本当は社内刷りなどをする前のちょっと良い展示を交番の隣の部屋でしているので、本当に知らないような小さなお店とか、いろんな食べたり泊まったり、遊んだりっていうのを展示しておりますので、ちょっと覗いてあげてください。3月くらいになれば、正式に社内刷りとか大きいポスターを作ったり、いろいろ活発にするそうですね。

図書館 やっぱりちょっと背中を押してもらったら、自分から行ったりするのはちょっと最近の学生さんだと…

利用者 そうなんですよ。学生さんは、ちょっと働きかけるとどんどんやってくれるんですけど、そのきっかけがね。

図書館 強制されると嫌でしょうし。でも若い人にはパワーがありますからね。前は、写真学科の人がまちの人々の写真を撮影されていましたが、やはりすごく人の表情をとらえるのがうまいんですよね。もっと一緒に何かできたらなと思っています。

利用者 今、練馬区全体で町会の加入率って大体 35%なんですよ。マンションとかには若い方がいっぱい入っているらしいんですけど、なかなか若い世代が町会に入ってこなくて。最近はどこも高齢化が進んでいるということで、告知するにも新しい方法を考えなきゃいけない時期にきています。ところで、こちら小竹図書館の個人利用登録者が1万1000人余りで、年間約21万人が来られていると知り、これはすごい数だなと思います。こういうチャンネルを利用しない手はない。非町会員の方も若い方からお年寄りの方までいろんな人が来ているので、こここそが情報の発信源になるんじゃないかなと思いました。

図書館 いろんな情報を、たとえば掲示板などで発信できたらいいなと、それこそ利用者の中にはお神輿を担ぎたい方もいると思うんですよ。ただ手続きが難しそうとか、町会に入らないといけないのかな？とか考えるのかなと。

利用者 難しいですよ。ランダムに誰でもお神輿を担ぎに来てくださいとはね……。ある程度身元がちゃんとしていてほしいんですよ。だから、前に来ていた日芸の学生さんとか、そういう方だといいいけど、あまりに一般募集をしちゃうと、実際にはどういう人が来るかわからないから、それがちょっと不安なんですよ。

利用者 区内の某地域では、お神輿を担ぐ際に痴漢が出たという話も聞きました。それで、町会さんが半纏を持っている人ではないと、とされたそうです。僕もお神輿を担いだ時に教えていただきました。

利用者 本当にいろいろありますよね。お祭りのときには、どうか事故なく終わってくれば、と思いながらやっているんですけどね。

図書館 主催する側としてはそうですね。それはわかります。

利用者 旭丘も図書館さんのチラシを大きく印刷してもらって、掲示板に貼ったりはしているんですけどね、意外と遠いんですよね、旭丘のはずれから小竹図書館までの距離が。東長崎との境があるから、1駅くらいあるのかな？ 高齢になると、自転車に乗れない人も多いので。私はまだ自転車で来ることができるけど、歩いて来るとなると、ちょっと大変って思う方もいるのは、残念だと思います。

図書館 練馬区は広いですからね。小竹図書館は、練馬、板橋、中野、豊島とか、そういう区も近いので、区外の。

さて、話は3番の「知が交わり、想像を生み出す」というコンセプトについてに移ります。人と人との空間のつながりというのを作っていこうというものだと思うのですが、例えば新しい図書館だったら、ボランティアのお部屋があるところもあり、いつボランティアに来ていただいてもいいですよ、という図書館もあります。小竹図書館は、会議室が詰まっていたら使えないし、いろいろと制約があります。ただ、当館で数年前からやっている、本の修理をやる「ボランティアの時間」は、参加者から面白いと言っていたき、複数回来てくださる方がいらっしゃいます。本当に本の修理をするだけなのですが。

また、今年度からあかちゃんタイムというのをやっています。これは、あかちゃんを連れて図書館に行くと、突然泣き出すことがあって、白い目で見られているような気がする。周囲に迷惑をかけるから、本を借りるときは、さっさと行ってさっさと帰るようにしていますという保護者の声を聞いて、とても切ないなと思ひまして、堂々と来てくださいという時間を設けることにしました。まだ参加者が多いとは言えませんが、第一金曜日の11時から13時までの2時間、あかちゃん連れのお母さん同士でお話をしたり、有識者、例えば保育士に来てもらって、あかちゃんの発育に関するお話をしてもらったり、保健師さんに来てもらって育児相談にのるということをやっています。なかには、子どもの相談だけでなく、「ママ友って、どうやって作れますか？」という相談もあり、ちょっとびっくりしました。ママ友がいなくて、ずっと家にこもっていたけれど、今日は勇気を出して来てみましたというお話でした。育児期間中は、孤独を感じる人も結構いるのではないのでしょうか。ところで、先ほど、自己紹介の中で、児童館さんは学校にいけない人の対応もしているというお話がありましたが、ご案内してもいいですか？

利用者 どうぞ、おっしゃってください。

図書館 小竹図書館にもこれまで何人か相談に来られたことがありまして。例えば、浪人中で誰とも話していないけど、突然、勉強する意味がわからなくなったとか、大学に入るには入ったが、自分には合っていないみたいで通学できなくなったとか。また小学生をもつお

母さんが訪ねてこられて、うちの子が学校に行けなくなってしまった。でも図書館なら行きたいと言っている。だから子どもが昼間とかに来て、「何してるの？」と声をかけないでください。委縮するので、どうか放っておいていただけないでしょうか？ということがあったりしました。

利用者 他の児童館でも、児童館には来られるけど学校には行けない。でもちょっと後押ししてあげると、行けるようになる子もいる。朝、児童館に寄ってから学校に送り出すとかですね。またこれは試験的になんですけど、試験を受けられない中学生を児童館で特別に試験を受けられるように学校と調整して、ということをやっているところもあるんです。いろいろ相談していただければ、私たちも対応を考えます。地域の子どもたちを支援するためなら、私たちもできることは何でもやりたいと思っているので。

図書館 ありがとうございます。利用者から相談を受けて、お話を聞いても、その相談事をどこにつなげばいいのかは、いつも悩むところです。ケースごとに、つなぐ場所も異なりますから。

利用者 そうですよ。どこにつなげばいいのかっていうのがね、なかなかわかりにくい…

図書館 そうなんです。

利用者 私は実家が金沢なんですけれども、今介護で東京と金沢を行ったり来たりしています。実家のそばに、最近話題の石川県立図書館があります。最初はテーマ別の本ばかりが並んでいて、十進分類法に慣れている私は、探しにくかったんですけれども、若い子たちはそれが平気みたいで。そこは広い円形劇場みたいな図書館で、周囲は全部窓になっていてとても明るくて開放的で、椅子の形もいろんなものがあるんです。各自がいろんな方向を向いて自由に本を楽しんでいる。本だけでなく、その図書館も自由に楽しんでいるという感じなんです。イベントに誘われて図書館に来るけれども、あとは理由もなく図書館に来て、楽しんでいる。目的なく来てみたけど意外と面白かったと。展示してある本の中から意外と面白い本を見つけて、知と出会うって、こんな感じなのかなと思いました。

館内では子どもがすごく騒いでいて、こんなに騒いでいるうえ、遊具まであって、どうなるんだろう？と最初は思っていたんですけれども。ところが、子どもたちに違う場所で図書館に来て本借りた？と聞いたら、本は借りなかった、読まなかったと言っていました。けれども、自分が遊んでいる間にお母さんが本を借りて、その本をおうちで読んでくれる、と。ああ、それでもいいんだなと思いました。イベントをして、寄せることって大事ですけど、目的もなく来た人がそこで楽しいなと思える雰囲気は図書館にあればいいなと

思います。すごく制約はあると思いますが、練馬でいろんな方向性がある図書館ができていったらいいなと思います。

利用者 ありがとうございます。3番目の人と人、人と地域のつながりの創出という点でひと言。小竹図書館の玄関に入ったところで、バリアフリー映画会『最強の二人』のポスターが掲示されていたのですが、この近くに転居してきた障害がある方と2人ほど知り合うことができました。その方たちからお話を聞いて、本日は2つ館長に聞いていただきたいと思ってきました。1つは少し言いにくいのですが、その2人の方が図書館が大好きだとおっしゃっていたので、小竹図書館を紹介したんです。どうしたら本を貸出できるのかって質問があったので、ご自分の保険証とかそういうものを持ってカウンターに行けばいいって言ったんですけど。そしたら手続き、お二人ともなさったそうなんですけど、カウンターの方の言葉がすごく早くて、大事なところは全部手続きができたからカードもいただいて、本も借りて帰ってこれたんですけど、途中の説明がきっといろいろあると思うんですね。お仕事として。それが聞き取れなかった。最終的にはカードをいただけなので、これでもう完了だと思って帰ってきたと言っているんですけど。やっぱりその方たちの状態を見て、どう説明をしたらいいのかみたいなのをちょっと判断していただけると良かったのかなって。私が付き合えればよかったんですけど、なかなかそれができなかったもので。どうだった？って聞いたら、そういう話があったので。これが人と人とのつながりと、それから図書館とのつながりを決定づけてしまうといけないなと思ったので。その後、そのお二人は、それぞれに小竹図書館に何回か来て本を借りているのも確認しているので、大丈夫だなって思いますが……。

そしてもう一つがですね、さっきの掲示物とか印刷物がまだ必要な方たち、インターネットがまだうまく利用できない方たちのためにすごく大事だなと思ったことがあって。小竹に引っ越しをしてきたんだけど、地震があったらどうしたらいいの？って聞かれたんです。私は小竹町に住んでいないので……。私が知っている限りでは小竹小ですかね、避難場所は。

利用者 1丁目と2丁目に分かれているんです。

利用者 ああ本当に、そういうことなんですね。私に変なこと言っちゃうと、それを丸のみにされてもなって、そのとき思っ。そういうものを図書館の一番目につくところに、常に人の生活とか命にかかわる情報を掲げておいていただけるといいなと思ったのと、それは図書館だけでなく、町会の方たちと連携を取ることが絶対に必要だなと思ったので、ここに来ればそのお話ができると思って、それもあって今日伺いました。

図書館 貴重なお話をありがとうございます。カウンターのスタッフがご利用者の反応も

見ずに早口で説明したというのは、深くお詫びします。教育が行き届いていなかったと反省しております。

利用者 いえいえ！ それに、その方々は、ちょっと障害がある方なので……。

図書館 なるほど……。耳の遠そうなお年寄りの方には一言一言区切って言うとか、その利用者に応じた心配りのある対応をするようにとってはいるのですが…

図書館 避難所についてですが、ここは一時避難所になっております。

利用者 すごく大事なことを聞きました。

図書館 災害備蓄品も置いてあります。ただ24時間過ぎたら、この辺だと、小竹小学校に案内することになっています。それと旭丘中学校ですね。どこでどんな地震が起きるかわからないので、第1と第2の避難所が指定されています。

図書館 いろんな場所に逃げられるようになっているので、例えば小竹小の方で何かあれば別の方へ逃げると、いろいろな方向へ避難経路があるのです。

利用者 そういうルールの配布物があれば……。例えば1階のチラシが積みあがっているようなところに、その情報が置いてあればいいですね。今度、光が丘の懇親会でも言いたいと思うんですが、その地域の大事な人のためのものも常に置いてあるといいなと思いました。

図書館 エレベーターの中にも実は備蓄品があるし、図書館の裏の物置にも備蓄品があります。24時間くらいだったら、図書館に避難されてもなんとかなります。町会さんなどにもありますでしょうか？

利用者 ありますよ。

利用者 防災倉庫っていうのが、区指定のものがいくつか散らばってありますよね。

利用者 町会でもいつ地震が来るのかわからないので、よく話し合っているんですけど。身体が不自由な方とか、一人で歩けない高齢者を誰がどういう風にケアするのかという話はよく出ますが、個人情報もあって、なかなかすべて把握しきれないんですよね。やっぱり一人で歩けない人を誰かが補助しないといけないしですね。守秘義務もあるし、なかなか

かね。

利用者 防災訓練を年2回行っています。さっき1丁目と2丁目で分かれるという話が出ましたが、2丁目は小竹小学校が避難拠点になっておりまして、1丁目が旭丘中学校になっているんですね。それで春には小竹小の校庭で避難訓練をし、秋には中学校でやります。今は中学校が工事中ですので、今年は7月にやってちょっとしばらくできないかもしれないんですけど、基本的にはそういう風に分かれています。前の3.11のときはまだ避難所として開設されることが徹底されていなくて、バタバタだったのですが。ちょうど小竹向原駅の真上にあるので、必ずしも町会の人でなくてもあそこに避難をされたんですね。駅を利用された方がそこも利用されたようで、いつ開設されていつ閉めてというのはその後かなり細かく皆さんに周知されるようになりました。いま小竹町会では防災会を頻繁にして、いろんなことをシミュレーションして打ち合わせをしております。民生委員として情報は、実は把握しておりますが、それはご本人が民生委員に知らせていいという了解のもとにもらっているものですから、すべての情報ではありません。実際に災害があったときにどうするのかっていうのも個人情報とか、あんまり詳しくは出せないんですけども、可能な範囲で援助が必要な人がどのあたりにいらっしゃるとか、そういう訓練はこの春行いました。あとは地域包括支援センターさんも情報を持っていらっしゃいますし、避難拠点にも情報が厳重に保管されているので、実際の災害のときには然るべき責任者の方がそれを開けて役立てられることと思います。この間の3.11はそこまではいきませんでした。

利用者 練馬区役所に行くと大きなハザードマップがあるんですね。便利帳にも入っています。僕も見ただんですけど、見にくいんですね。どこへ逃げたらいいのかわからない。あるんですけどね。それで僕は電話したんですよ、区役所に。区役所の方が教えてくれるんだけど、場合場合によってどこに逃げるのか、第一第二はどこかとか……。けれども、実際の災害時には、そんなこと思い出しながら考えているうちに、多分焼け死んじゃうんじゃないかとか……。水に流されちゃうんじゃないかなあとか。ただそうは言っても、最近の異常気候で、ついこないだも大雨が降ったりしましたよね。聞いていると怖くなっちゃって。先ほどおっしゃったみたいに、何を最低限やらなくちゃいけない、どこへ行かなくちゃいけないっていうことのインフォメーションは、何か目につくところに常に置いていないと、いざそういうことになったときにハザードマップを見てそれでどうやって逃げたらいいか、なんて改めて考えても間に合わないな……という感じがします。

図書館 その通りだと思います。

利用者 やっぱり災害って日頃から地域で話し合っ、お年寄りの方がどこにいるかとか

そういう会話を交わしていく中で、自然と助け合わなきゃいけないよねとか、そういう風になっていくのがいいのかと思います。機械的にはできないし、法律でもできないし。人と人、人と地域のつながりというのは、まさにこういうことをいうんじゃないのかなという気がしますね。

図書館 小竹図書館も年2回消防訓練をしています、そこに一般の方もいかがですか？という風にお誘いしても、なかなか参加を希望される人がいらっしやなくて。ボランティアさんに来ていただいたりしたこともあります。ボランティアさんはよみかせのときに何か起こったら困るので、あらかじめ勉強しておいていただきたいという思いもあって。でも、なかなか一般の方は来られないですね。

図書館 小竹図書館も年2回やるのですが、うち1回はここで災害が起こったと想定し、利用者の方を引率する形で、小竹小や旭丘中に実際に行って帰ってくるということをやっております。

図書館 そこに一般の方もどうですか？と言ってみても、なかなか参加される方は少ないです。

利用者 人と人とのつながりの創出に関してですけどね、図書館って基本的には静かにしてくださいというスタンスですよ？人がしゃべれる空間っていうのがないなあと感じまして。例えば面白そうな本を読んでいる人がいても、「どうですか？」なんて聞けない。なので、談話室的なものがあったら、もっと会話が弾むのではないかと。人と人とのつながりがそこからスタートすることもあるんじゃないかと思ったりします。

図書館 本当にそうですね。

利用者 そうそう。石川県立図書館は、おしゃべり自由なんです。電話もいいのです。最初はどうなるのかな？と思ったけれども、それでちゃんとうまくそれで回っていて、高齢者は新聞を読んだり、高校生や大学生もいっぱい来ていて、それぞれ勝手に楽しんでいます。

利用者 私から少しアイデアをいくつか……。この懇談会に参加させていただいて、毎年いろんな方との出会いがあって、かついろんなことが勉強になっています。まさにこの場自体が人と人とのつながりを生んでいるのかなと思います。ここが、先ほど教えていただいた、まさにお話をする空間では？こういった時間とか日時を決めて、コアなメンバーだけじゃなくて、利用者の方に参加いただくという場を作るのはどうかなというのが1つのアイデアです。図書館員さんの人となりが見えるような仕事のご紹介とかなんか

もやっていただけると、ちょっと身近に感じるのかなと思います。そういうところを子どもたちも知っていけるといいなと思いますし、大人の方であっても、こんなことまでやっているのかと気づくこともあると思います。それを踏まえて、ボランティアの募集とか、職業体験でお邪魔したり、本の修繕もあると思いますし、本のおすすめを書くとかもあったりするのかなと。小さい子でもお掃除のお手伝いぐらいできるたらいいなと思います。また、読書会みたいな形で、1冊の本について複数の方がしゃべるとかはできそうかなと思います。

あとは海外の方々とともに、力行会の学生さんたちとか留学生の方々も参加して地域の文化をご紹介いただくとか、なかなか私どもの保育園も子どもたちのグローバルな出合いっていうのはないんですけど、すごい身近にたくさん人の資源があるなど、そこらへんでお話できる機会があればいいなと思いました。オーストラリアとの交流でいうと、いま zoom などオンラインの動画のシステムもありますし。例えば姉妹都市の人と交流するとか、そういうのもありえるのかなと思ったりします。

図書館 お話に出た職業についての説明は、小学校から依頼があったら見学会をしたり、私たちの仕事を紹介したり、インタビューを受けたりしています。なかには「館長さんになって、何が一番苦勞ですか？」とか、一瞬たじろぐような質問もありますけど（笑）。子どもを対象にした「1日図書館員」などもやっています。エプロンをつけて、本を元あった場所にしまう配架や、本探しなどをやってもらったりしています。あとは中学生を対象にした職業体験もしています。未就学児の職業体験はやったことがないので、ご希望があればできる範囲のことでプログラムを組みたいと思います。

利用者 もしできれば、ご相談させていただけたらなと思います。

図書館 去年でしたら、開進第三小に講師として伺って、子どもたちに地域ボランティアについての説明をしたり、相談を受けたりしました。そのときは、私だけでなく、町会さんとか、スーパーの店長さんとかも来られていて、それぞれの仕事の説明をしたり、子どもたちがそこでボランティアをするにはどうしたらいいかをアドバイスしたりしました。

また明日は板橋区の小学校に行って、仕事のやりがいを話すことになっています。その授業には、司書だけでなく、新聞記者や医者など10~15人くらいのさまざまな職業の方が講師として来られて、100人くらいの児童から質問を受けるそうです。こんな活動しながら、一人でも多くの人に、図書館のこと、司書の仕事をちょっとずつわかってもらえたらいいなと。敷居がない図書館でなればいいなと考えています。あ

図書館 あと4番の情報へのアクセスを支援するというコンセプトですが、今、小竹図書館では、月1回、スマホ相談会をやっているんですよ。東京都から講師の方に来ていただい

て、1対1で、1人30分間、スマホについてどんな質問をしてもいいですよというイベントです。高齢者の方に、結構活用されています。たぶん、大半の人はスマホを持っていても全部の機能を理解して使っているわけではないので、「これはどうしたらいいのかな？」という疑問を感じたら、自分のスマホを持ってきて聞くことができます。よかったら、皆さんもぜひご活用ください。

さて、閉会の時間が迫ってまいりました。他にぜひこれだけは言っておきたいという方がいらっしゃいましたら、どうぞ。

図書館 本日はお忙しい中、たくさんの方に来ていただいて、厚くお礼を申し上げます。貴重なご意見を誠にありがとうございました。みなさまからいただいたご意見は、今後の図書館運営に役立てていきたいと思っております。みなさんどうぞよろしく願いいたします。